

# 「中国ブロックにおける社会資本整備重点計画」第1回有識者会議

■日時：令和8年1月16日（金）16:10～

17:00

■場所：広島合同庁舎2号館7階第4会議室

## 1. 開会 (事務局)

それでは定刻となりましたので、只今から中国ブロックにおける社会資本整備重点計画第1回有識者会議を開催致します。

本日は、ご多忙中にもかかわらず、本会議にご出席を賜り誠にありがとうございます。

本日の司会進行を務めさせていただきます中国地方整備局の企画部企画課企画第一係長の藤原でございます。よろしくお願い致します。

それでは、開催に当たり、中国地方整備局長の杉中より挨拶を申し上げます。

### (開会挨拶：中国地方整備局 杉中局長)

本日は、ご多忙のところ、中国ブロックにおける社会資本整備重点計画有識者会議にご参加、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

また、国土行政、国土交通行政、また中国地方整備局の社会資本整備推進にあたりまして、多大なるご理解とご協力を賜っております。誠にありがとうございます。この場をお借りして感謝申し上げる次第でございます。

まず現行の中国ブロックにおけます社会資本整備重点計画でございますが、令和3年度から令和7年度までということで、5か年計画でございます。まさに今、次の5か年計画を策定する時期に来ているということでございます。

実は全国社会資本整備重点計画につきましても新たな計画が議論されておきまして、ちょうど本日、第6次計画として閣議決定されたところでございます。

近年、国土交通省を取り巻く社会情勢におきましても、各地で自然災害が激甚化・頻発化しております。中国地方におきましても毎年のように土砂災害等が発生している状況でございます。能登半島をはじめ、先日、島根県東部を震源とする地震も発生している状況でございます。

また昨年1月には埼玉県八潮市で、下水道の破損による道路陥没の事故が発生してしまいました。国土交通省として予防保全活動のメンテナンスを進めているところでございますが、なお一層の施策の強化が求められる状況になってきてございます。

もともと人口減少、あるいは急速な少子高齢化という状況でございます。建設業における担い手不足、いろいろな意味での国際競争の激化、GX、DXといった社会情勢が大きく変化している状況でございます。計画の見直しに当たりましては、こうした変化を踏まえつつ、時代にふさわしい社会資本整備の在り方を示していくことが必要でございます。

さらに、より良い中国ブロックにおける社会資本整備重点計画の策定を、ぜひ行ってほしいと考えてございます。皆様の活発な議論を、ぜひともお願い申し上げまして、最初のご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願い申し上げます。

## 2. 会議規約について (事務局)

それでは議事に入らせていただきます。

初めに会議規約についてですが、資料1に記載する規約案、別紙委員名簿のとおりとさせていただきます。規約について特にご意見がなければ、本日付で施行いたします。特に問題はございませんでしょうか。

(一同)

意見なし。

(事務局)

ありがとうございます。

それでは本会議の委員長として、福山市立大学の渡邊教授にご就任いただいております。以降の議事進行につきましては、渡邊委員長の方をお願いいたします。委員長、よろしく願いいたします。

(渡邊委員長)

委員長を拝命しております福山市立大学の渡邊でございます。よろしく願いいたします。

年が明けて半月が経ちまして、この半月の間に先ほど局長からお話がありましたように、大きな地震がありまして、福山も震度4で徐々に大きな揺れを感じたところでございます。また寒波に伴う降雪など結構厳しい状況があり、いきなり選挙など、なかなか世の中の動きがすごいと感じながら日々暮らしているところでございます。

さて、先ほど全国の重点計画が閣議決定されたというお話がございました。そういう意味では、全国を踏まえてこれから各地方ブロックの社会資本整備重点計画を策定していくことになったと思っております。

その中であって、これまで一方で中国地方の広域地方計画の策定も順調に進んでおりまして、その個別施策の中で目指す姿と書いてあるのですが、その実現に取り組む上では、やはり国の社会を支えるインフラは欠かすことができないものでございます。そういった意味では、この広域地方計画と今回ご審議いただきます社会資本整備重点計画は両輪であると認識しておりますので、本日もいろいろ忌憚のないご意見をいただければと存じます。よろしく願いいたします。

### 3. 中国ブロックにおける社会資本整備重点計画の策定スケジュールについて

(渡邊委員長)

それでは早速、議題に入らせていただきます。お手元の議事次第をご覧いただきたいのですが、中国ブロックにおける社会資本整備重点計画の策定スケジュールについて、まず事務局の方から説明をお願いいたします。

(事務局より説明)

### 4. 中国ブロックにおける社会資本整備重点計画(素案)の検討状況について

(渡邊委員長)

続きまして、次第の中国ブロックにおける社会資本整備重点計画素案の検討状況、に入ります。現時点で素案が取りまとめられておりますので、こちらを報告いただき、本日は委員の先生方から、1人2分程度、2~3分で事務局の説明に対してご意見をいただく進行でございます。忌憚のないご意見をいただければと存じます。

なお、時間が限られておりますので名簿順にご発言いただきます。氏原先生から始めて、名簿順に進めますのでよろしくお願いいたします。

それでは、まず事務局から資料説明をお願いいたします。

#### (事務局より説明)

#### (氏原委員)

非常によく対応いただけていると思うのですが、今回の資料で気になったのは、第2章の中の4層構造の話で、この4層構造がイメージしにくいと感じました。今日見ている資料だけではちょっとわからないのですが、人口規模のスケールを言っているのか、構想が示しているものが見えにくいと感じました。つまり都市部から中山間にかけてのスケール感で考えたらよいのか、あるいは圏域みたいな話もあるので、単純なエリア、都市部としての面積に至ったものにしたらよいのか、そのあたりがよくわからなかったというのが率直に感じたところです。

有機的にそれらをつなげるという話がありますが、このレイヤーが何を指しているのか、ちょっとイメージしにくいので、もう少しわかりやすく説明いただいた方が資料としてよいのではないかと思います。

例えば4層目の小さな拠点の話は中山間地域の話で、第3層が地方の小都市で、第2層が中核都市であれば、単純な都市規模の話だろうと思うのですが、第1層が県境を超えるというのは都市規模に関係なく圏域単位の話にも見えますので、このあたりのレイヤーをどういうふうに考えているのか、もう少しわかりやすく説明いただければと思います。私からは以上です。

#### (内田委員)

3点ございます。小さいものが多いのですが、まず日本語の問題です。素案12ページの冒頭、「近年、未曾有の豪雨に伴う河川の～・・・今後も同様の災害が頻発化・激甚化することが懸念される」の記述について、日本語が少しわかりにくいと感じました。「今後も同様の災害が頻発化・激甚化」というのは、「同様の災害の激甚化」という言葉がセットになりにくい印象ですので、ご検討いただければと思います。既に起きているけれど、さらにここから頻発・激甚化するということが伝わるようにしていただければと思います。

二つ目は流域治水についてです。本文に言葉は書いてありますが、県管理のことは書かなくてよいのかなと思いました。連携という意味ではあった方がよいのではないかと思います。併せて下水道についても、検索してみたのですが記載が入ってこなかったりするので、その辺りのつながりがあってもよいのではないかと思います。

最後に、全体の時間軸が少しわかりにくかったので、どこかできちんと記述があれば教えていただければと思います。以上です。

#### (大島委員)

活躍人口について、多様な関係者の参画のところに盛り込んでいただきましてありがとうございます。人も重要な資源だと思っております。

ただ、広域地方計画の中で活躍人口の議論をしたときに、関係人口を活躍人口という定義にしたのではなくて、地域に住んでいる人の中にも活躍していただく人口もいる、という話があったと思います。そう考えると、文章が「地域と連携する活躍人口」になっていることによって、活躍人口が地域外の人、関係人口のように捉えられてしまうところもあると思いましたので、書きぶりのところでご検討いただけるとありがたいです。

(神田委員)

これまでの議論を踏まえていろいろ加味してくださったところで、大きく他の意見はございません。振り返るコメントになりますが、広島を見ていきますと、いろいろなインフラができることによって町の雰囲気が変わってきていることを強く感じますし、データでもそういう効果が出ているところはあると思います。

この辺は議論があったかもしれませんが、インフラが完成することによる効果について、時間的にはそれほど触れられてこなかったのではないかと振り返って思っております。抽象的なお願いですが、インフラができることによって賑わうんだ、というトーンが全体的ににじみ出るような内容になっていけばよいと思います。

また、投資なのか費用なのかというところを、より意味を利かせて書く必要があると感じましたので、最後のブラッシュアップの際に可能であればお願いしたいと思います。社会基盤の重要性をしっかりと伝え、実感できるところまで伝えられる内容になるとよいと思っております。

(谷本委員)

私からは、ここをどうこうという話ではありませんが、過去からやっている話として、地方にいる者として感じていることがございます。

地方分権と逆行することにならないかという文脈もありますが、市町村には専門的な技術職、いわゆる高度な技術を持った人を配置できない状況があると思います。それも前提にして進めなければならないと思います。

実際に鳥取県のように人口が少ない地域では、30年後に生産年齢人口が半減する、といったことが普通にあり得ます。その中で担い手の確保は、やれるところはやったらよいのですが、そうではないところが多く出てくると思いますので、既存のマネジメントの仕組みを抜本的に変えていくことをやっていかなければならないのではないかと思います。

中国地方だけではありませんが、中国地方で例えば交通で言うと、鳥取県がシンクタンクの役割を担って、市町村ができないことをカバーする、ということをやっていたりもしますので、役割分担を変えていくというのは、その次にあるのではないかと個人的には思っております。国との整合性もあると思いますが、一步一步、新たな体制を作るということを打ち出してもよいのではないかと思います。

(塚原委員)

私も、ここを変えてほしい、といった具体的な点があるわけではありません。

いろいろなインフラ整備が進む中で、作られたものを地域住民の方たちがどう活用していくか、どうそこから賑わいを創出していくか、といった部分が、今後やっていく中でどんどん盛り込めるようになっていけばよいのではないかと思っております。

例えば被災地では、経験を語り継ぐものを設置したり、住民が周りに植栽したり、子どもたちが壁画を作り、その後で何が起こったのかを伝えつつ、その場で皆が思い思いのときに立ち寄って祈りを捧げるような場所にしていこう、という動きが生まれている様子取材の中で見ってきました。

これは災害に関わるものだけではなく、道路などいろいろなものでも、その周りで何ができるかは、近くに住む地域住民の方たちが集まって声を上げて考えていくのだと思います。そうした議論ができる場を、これから整備していく一つ一つのもので作っていけたらよいのではないかと感じました。

(半井委員)

前回、私の漠然としたコメントに的確にお答えいただきありがとうございました。もう一つ申し上げますと、資料4の方でもありましたが、地方自治体との連携、あるいは官民連携は非常に重要だと思います。特に私が着目している道路の維持管理で言うと、あくまでもネットワークとしての整備になりますので、その連携を深めていただきたいと思います。

ご説明にありましたインフラメンテナンス国民会議ちゅうごくの活用は重要だと思いますが、あくまでもプラットフォームですので、そこでの情報共有だけでなく、一步踏み込んだ個別プロジェクトごとの直接的な連携も必要になります。

国と県、あるいはその下の市町村は比較的つながりやすいと思いますが、民間事業者、広島であれば広島高速のようなところも含め、連携していただいた方が効率化され、結果として社会資本整備全体の効率的な維持管理につながるのではないかと思いますので、この点をもう少し書き込んでいただければよいと思いました。

(鈴木委員)

気になった点を2、3点申し上げます。

素案の2ページ目だったと思いますが、文言の話です。上から数行目の「土砂や洪水氾濫が発生するなど」というところは、「土砂災害や洪水氾濫が発生」といった表現に修正していただければと思います。

それと13ページ目に南海トラフ地震のことが書いてあったと思いますが、南海トラフ地震の被害想定の見直しが全国的に進んでいるのではないかと思います。取りまとめの時期と素案ができる時期が重なるかもしれませんので、全国的あるいは中国地方関係でアップデートが必要な箇所があればアップデートしていただければと思います。特に最大死者数などの数字が変わる可能性があるのではないかと思います、指摘いたしました。

最後はコメントですが、社会資本整備ということで、次の時代に向けて社会基盤を中国地方の発展のために整備しておく、ということが、次の時代の発展のためであるという、そのあたりの未来志向、明るい未来が描けるイメージが大事だと思います。文書としてきちっと書かなければならないと思いますが、概要やパンフレットなどの1枚目のところは、明るい未来のために、といった形で、この計画の狙いを強調して書かれた方がよいのではないかと思います。これを見て皆さんが経済活動・社会活動を展開されていくと思いますので、未来が描けるものが最後出来上がるとよいと思いました。以上です。

(藤原委員)

これまで先生方の意見の中で、行政だけでなく民間企業、市民を巻き込んでいくことが必要だというお話がたくさん出てきたと思います。鈴木先生がおっしゃるように、最後に作られる資料はわかりやすいものにしていただきたいと思います。

現状の資料は漢字が多かったり、専門用語が多かったりしますので、市民の方が見られるものに関しては、もう少し砕いた表現を使われてもよいのではないかと思います。

もう一つ、会議のお話をいただいてから大きく話題になったことの一つがクマだと思います。この中でクマの話はなかったのですが、例えば自然との共存、山の手入れなど、そういったところも一言あってもよいのではないかと感じました。

(陸田委員)

前回、私の方からは港湾中心にかなり申し上げましたが、そういう意味では、かなり多くの修正を入れていただきましてありがとうございます。追加として2点ほどございます。

パワーポイントの資料の中で、目標3のところでは、上の文言の2行目で「里山里海づくり」ということで使われていますので、これではよろしいかと思うのですが、可能であれば、多島美だとか多島海など、そういったワードは最近、というか昔はよく使われていたものですが、そういったものが入ると、もう少し「陸上と海を一体的に考えている」というニュアンスが中国ブロックとしてアピールする面になるのではないかと考えております。

また、小目標3-9に資源循環ネットワークというワードがあるが、資源循環が何を意味するのか分かりづらかった印象がありますので、ご検討いただければと思います。

#### (渡邊委員長)

私の方からは3点ほどございます。

まず1点目は、活躍人口について、委員の方からご指摘があったので、計画との整合についてです。今回、広域地方計画では活躍人口を結構前面に出しており、そういった活躍人口が活躍できるためにも、うまくつながることが大事であり、当然社会インフラも情報インフラもそうですので、そういったところでの整理を見直していただく、あるいは追加していただく必要があるのではないかとというのが1点目でございます。

2点目は、中国地方の特徴をしっかりと捉えるということです。もちろん捉えて書いていただいているのですが、西日本の要だという話があり、近畿・四国・九州の中間に位置する中国が非常に重要な位置を占めていると思います。西日本豪雨のときは、中国地方での高速道路ネットワークなどの関係によって物資が滞ってしまったということもありましたので、計画を作るときに当然調整されると思いますが、近畿・九州、あるいは四国とのすり合わせにご協力いただければと思います。

3点目は、島しょ部の話がありましたが、中国地方は人口の減り方に地域差がありそうで、島しょ部や中山間、半島の先端など、生活条件が不利な地域で厳しくなりそうです。そういった意味で、どうバックアップしていくのかについて少し考えていく必要があるのではないかと思います。もちろん十分書いていただけているとも思いますが、そういった観点でもう一度見直していただけるとありがたいと感じた次第でございます。

## 5. 質疑等

#### (渡邊委員長)

本日のところはしっかり受け止めて、事務局の方で対応していただきたいと思います。

本日は短い時間で終わりましたが、委員の皆様からいろいろなご意見をいただきました。大きく、素案をこういうふうに変えるべきだというご意見はなかったかと思っておりますので、事務局の方で進めていただいている作業を引き続き努力いただければと思います。

また、いくつかの視点が委員の先生方から出てきておりますので、その観点を踏まえながら素案の方も見直し検討していただければと思った次第でございます。

それでは進行を事務局の方にお返ししたいと思います。よろしく願いいたします。

## 6. 閉会

#### (事務局)

渡邊委員長、ありがとうございました。

続きまして、局長の杉中の方からご挨拶申し上げます。

**(閉会挨拶：中国地方整備局 杉中局長)**

本日会議では、活発にいろいろな意見を頂戴し、誠にありがとうございました。ご意見を賜りましたが、現行案からの大きな変更点はなかったものと認識しております。現在の案を基に、本日いただきましたご意見、またコメントなどを踏まえまして、引き続き我々の方で少しずつ見直しをさせていただきたいと考えてございます。

ぜひとも、より良い中国ブロックにおける社会資本整備重点計画を策定していきたいと考えてございますので、先生方には引き続き今後もまた相談をさせていただきたいと考えてございます。引き続きご指導のほどよろしくお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございます。

**(事務局)**

ありがとうございました。

先ほど局長からもお話がありましたように、本日、委員の皆様からいただいたご意見を踏まえまして、次回3月17日に改めて有識者会議を開催させていただきたいと思っております。その会議に向けて本文への反映等を検討してまいりたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

また、本日ご出席の委員の方、ご欠席の委員の方を含めて、この場でご発言できなかった意見につきましても、事務局の方にメール等でお受けいたしますので頂戴いただきたいと思います。改めて引き続きよろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして会議を終了させていただきます。皆様お疲れ様でした。

以上